

令和 6 年 6 月 17 日現在

機関番号：12501

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2020～2023

課題番号：20K02649

研究課題名(和文) 発達リスク予防・低減のための保育者研修及び幼児対象心理教育の開発

研究課題名(英文) Development of childcare worker training program and psychological education for young children to prevent and reduce developmental risks

研究代表者

砂上 史子(SUNABAMI, FUMIKO)

千葉大学・教育学部・教授

研究者番号：60333704

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：児童虐待や貧困等の深刻化している。そのため、TIC(トラウマインフォームドケア)が教育や福祉等の実践現場で必要不可欠となっている。本研究の目的は、発達上のリスクの予防と低減のために、TICに根差した保育実践の基盤となる調査を行うことである。本研究では、保育現場におけるトラウマ等に関する質問紙調査、地域子育て支援者に対するインタビュー調査を実施した。その結果、保育現場におけるトラウマの影響が懸念される子どもの実態や、地域子育て支援者の実践知等の知見を得ることができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では、保育施設に対する質問紙調査から、保育現場におけるトラウマの影響が懸念される子どもとその対応等の実態を明らかにすることができた。また、地域子育て支援の支援者へのインタビュー調査から、気になる親子等に対する支援者の実践知を明らかにするとともに、TICの必要性を考察することができた。これらの成果は、必要性が高まっているTICに根差した保育実践を構想するための基盤となる知見を提供する点で、学術的、社会的意義を有する。

研究成果の概要(英文)：Child abuse and poverty are becoming more serious. For this reason, TIC (Trauma Informed Care) has become indispensable in practical settings such as education and welfare. The purpose of this study is to investigate the foundation of childcare practices rooted in TIC in order to prevent and reduce developmental risks. In this study, we conducted a questionnaire survey on trauma in childcare settings and an interview survey with local childcare supporters. As a result, we were able to gain knowledge about the actual situation of children who are concerned about the effects of trauma in childcare settings, as well as the practical knowledge of local child-rearing supporters.

研究分野：保育学

キーワード：発達リスク ト라우マ 保育 幼児教育 専門性

様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

我が国では、児童虐待や貧困などにより、愛着障害、情動のコントロール不良、行動障害等の内的・外的問題を生じる「リスクの高い」子どもが増えている。児童虐待の相談対応件数は、下図の通り、平成 30 (2018) 年度に 159,850 件 (速報値) と過去最多となり、平成 2 (1990) 年の 1,101 件に比して約 140 倍に増加している (厚生労働省, 2019)。

また、貧困も深刻化し、子どもの相対的貧困率は、2015 年には 13.9% で 7 人に 1 人が貧困であり、その率はひとり親家庭では 50.8% にもなる (厚生労働省, 2017)。貧困は体験や居場所、支援的人間関係等、子どもの健やかな発達を支える資源の剥奪を引き起こし、子どもの内的・外的問題に繋がる。虐待も貧困も局所的な問題ではなく、それらの近似値状況や潜在群などは多い。さらにこれらの問題は世代間伝達し、虐待や貧困の再生産を生じる。

平成 27 (2015) 年より本格実施の「子ども・子育て支援新制度」、さらに令和元 (2019) 年 10 月より実施の「幼児教育の無償化」により、これまで以上に社会全般にとっての「公共財」(OECD “Starting Strong II”, 2006) としての質の高い保育・幼児教育が求められている。国内外の研究 (Heckman & Masterov, 2007; OECD 国際レポート, 2015 等) 等から、質の高い保育・幼児教育は、成人期以降にも持続する他者に対する信頼感や自己調整能力などのいわゆる非認知的能力を養い、その肯定的影響は貧困等の「リスクの高い」子どもにおいてより大きいことが明らかになっている。ノーベル経済学者である Heckman らの、リスクの高い子どもを対象にした幼児教育「ペリー就学前計画」の 50 歳時点での追跡調査の結果では、幼児教育の肯定的影響は次世代にも受け継がれることが明らかになっている (Heckman & Karapakula, 2019)。したがって、発達上のリスク予防とその低減のための保育者の専門性向上及び幼児を対象とする実践は、「幼児教育無償化時代」の喫緊の課題である。

したがって、リスクを抱える幼児のみならず、全ての幼児を対象にリスク関連問題の発生予防とリスク低減のための、保育者の専門性向上のための取組が必要である。特に、発達特性として脆弱性や感受性が著しい幼児期においては、トラウマの可能性とその影響はより注目される必要がある。

「トラウマ・インフォームド・ケア」(以下、TIC) とは、トラウマを念頭に置き、トラウマとその反応を十分認識し、再トラウマ体験の防止と回復を促進させる公衆衛生的アプローチである (野坂, 2019)。TIC に基づく心理・医療的介入は被虐待児や困難を抱える親子への支援で確実な成果を挙げており、保育現場への適用も可能であるとされている (福丸ら, 2018; 野坂, 2019)。

発達上のリスクに関連した子どもの内的・外的問題に対しては、問題発生後の介入 (intervention) に主眼が置かれ、発生予防 (prevention) が不十分な現状がある。身体的健康では「手洗い・うがい」などの予防的習慣行動が日常的に実践されている一方で、心理的健康に関する幼児期からの予防的習慣は検討すらされていない。予防は、発達上のリスクの低減とリスクに関連する問題の発生予防を可能にし、全ての幼児が対象となり、日常的に継続することが有効である。したがって、効果と公平性の両面において、保育現場において TIC に基づく実践の意義は非常に大きい。

しかし、我が国のほぼ全ての保育現場で虐待や困難を抱える親子への支援を行っているにも関わらず、TIC の認知度は低く、TIC に関連する保育者の専門性も十分ではない。そこで、TIC を活かした保育実践の構想の基盤となる研究が必要となる。

2. 研究の目的

児童虐待や貧困等の深刻化している。そのため、TIC (トラウマインフォームドケア) が教育や福祉等の実践現場で必要不可欠となっている。本研究の目的は、発達上のリスクの予防と低減のために、TIC に根差した保育実践の基盤となる調査を行うことである。本研究では、保育現場におけるトラウマ等に関する質問紙調査、地域子育て支援者に対するインタビュー調査を実施した。その結果、保育現場におけるトラウマの影響が懸念される子どもの実態や、地域子育て支援者の実践知等の知見を得ることができた。

3. 研究の方法

本研究では、TIC に根差した保育実践を構想するための基盤となる保育現場の実態の解明等を目的とし、2020 年度から 2023 年度の 4 年間に主に以下の 2 つを実施した。

- ・「保育現場における『トラウマ』の影響が懸念される子どもに関わる対応、組織の在り方」に関する質問紙調査
- ・「地域子育て支援におけるトラウマインフォームドケアの必要性」に関するインタビュー調査

4. 研究成果

- (1) 「保育現場における『トラウマ』の影響が懸念される子どもに関わる対応、組織の在り方」に関する質問紙調査

目的：トラウマは精神健康をはじめ、身体的健康や社会生活など広範囲にわたる影響を及ぼすことから、「トラウマを念頭に置いたケア(Trauma-informed Care：以下 TIC)の必要性が認識されてきている(野坂、2019b)。特に年齢が低く、トラウマとなるような出来事が繰り返されて長期化するほど影響が深刻化するため、幼児期への介入が重要となる(野坂、2023)。しかし、日本の保育現場における TIC の実践や研究は十分ではない。そこで、本研究では保育現場における「トラウマ」の影響が懸念される子どもの実態とその対応、組織の在り方について明らかにすることを目的とする。

方法：A 県の保育所・幼稚園・認定こども園の 5 歳児クラスの担任保育者を対象に、質問紙調査を実施した。117 園に 134 部を配布し、130 部(130 名)の回答を得た(回収率 97.0%)。実施期間は 2022 年 8~10 月である。質問項目は、以下の A~D(計 16 項目)である。「A. 基本属性」4 項目、「B. 『トラウマ』が懸念される子ども」7 項目、「C. 園内の職員間の連携や組織としての対応」4 項目、「D. 子どもの健やかな心身の発達に関わる実践」1 項目。

結果と考察：以下では主に「B. 『トラウマ』が懸念される子ども」に関する結果を述べる。「『トラウマ』となるような出来事や不適切な養育等による影響が懸念され、配慮が必要な子ども」の有無について尋ねた結果、「いない」が 60.2%、「いる」が 26.6%、「わからない」が 12.5%、「いない&わからない」が 0.8%であった。次に、「トラウマが懸念される子ども」について、「過去に事件・事故や災害等の非日常的で衝撃的な出来事を経験し、その影響がみられる子ども」(以下「事件・事故や災害等の影響児」と「虐待や不適切な養育等の困難な家庭環境による影響が懸念される子ども」(以下「虐待や不適切な養育等の影響児」)に分けてその有無や対応を尋ねた。

「事件・事故や災害等の影響児」の有無については、「該当しない」が 96.1%とほぼ大半を占め、「1 人」が 3.1%、「2 人」が 1.1%であった。「1 人以上」に該当する回答は 4.2%とごくわずかであった。この結果には、事件・事故や災害等に遭遇することが稀であることや、家庭からの情報共有がない場合には入園前の子どもの経験を把握することが困難であること等が関連していると考えられる。次に、「事件・事故や災害等の影響児」が 1 人以上「いる」と回答した保育者 5 名対象に、16 項目の特徴について「事件・事故や災害等の影響児」にあてはまるかを尋ねた。16 項目のうち 1 人以上にあてはまる割合が高かったのは、「過度に怖がる」(60.0%)、「感情の起伏が激しい」(40.0%)、「パニックを起こす」(40.0%)、「注意が途切れやすい」(40.0%)であった。この結果から、「事件・事故や災害等の影響児」の特徴として、自身の感情をコントロールすることの困難さや、大人への過度の甘え等の特徴が保育者に認知されていると言える。

「虐待や不適切な養育等の影響児」の有無については、「該当しない」が 72.1%と多くを占め、「1 人」が(17.1%)、「2 人」が 6.1%、「3 人」が 2.1%、「4 人」が 2.1%、「5 人」が 0.8%であった。「1 人以上」が「事件・事故や災害等の影響児」より多いのは、「事件・事故や災害等」よりも「虐待や不適切な養育等」の方が、発生率が高く継続的であり、家庭との連携において保育者側が常に意識していると考えられる。次に、「虐待や不適切な養育等の影響児」が 1 人以上「いる」と回答した保育者 30 名を対象に、16 項目の特徴について「虐待や不適切な養育等の影響児」にあてはまるかを尋ねた。図 1 の通り、16 項目のうち 1 人以上にあてはまる割合が高かったのは、「落ち着きがない」(63.9%)、「注意が途切れやすい」(61.1%)、「感情の起伏が激しい」(58.3%)、「暴言を吐く」(58.3%)、「暴力をふるう」(47.2%)、「身支度に時間がかかる」(47.2%)、「大人に過度に甘える」(47.2%)、「服装がだらしなかつたり、汚れが目立つ」(44.4%)であった。この結果から、「虐待や不適切な養育等の困難な家庭環境による影響が懸念される子ども」は、落ち着きのなさや注意の途切れやすさなどの ADHD(注意欠如・多動症)に類似する特徴や、暴言・暴力などの攻撃性に関わる特徴が保育者に認知されていると言える。

さらに、「事件・事故や災害等の影響児」と「虐待や不適切な養育等の影響児」の保育において特に難しさを感じることを尋ねた自由記述の回答から、前者に対しては、保育者は注意する際の伝え方等に難しさを感じていることを、後者に対しては、生活習慣や社会情動的能力に関する難しさや、個別的対応や暴言・暴力への対応に関する難しさを感じていることが明らかになった。

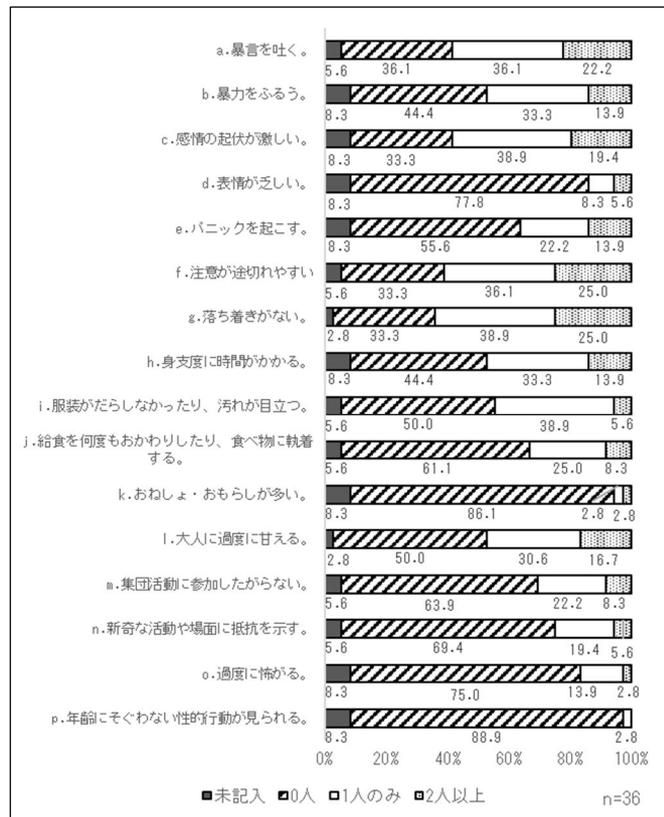


図 1 「虐待や不適切な養育等の影響児」にあてはまる項目

(2)「地域子育て支援におけるトラウマインフォームドケアの必要性」に関するインタビュー調査

目的：本研究では、虐待や不適切な養育が発生する要因、地域子育て支援における多様な支援ニーズ等を踏まえ、支援者の心理的負担や困難さが特に高いと思われる、気になる行動や不適切な養育が疑われる親子への支援に焦点を絞り、地域子育て支援の支援者の実践知を明らかにする。その上で、地域子育て支援の支援者の二次受傷の予防やさらなる専門性向上に向けて、TICの必要性を探ることを目的とする。なお、本研究では親子への直接的支援だけでなく、親子の困難な状況への理解や、学生への指導、支援者自身のメンタルヘルスに関する理解等も親子への具体的支援に直結するものであり、支援者の実践知とする。

方法：地域子育て支援の支援者7名を対象に、インタビュー調査を実施し、その中から気になる行動や不適切な養育が疑われる親子への支援経験について語った協力者5名を分析対象とした。実施時期は、2022年5～8月である。対面またはオンラインで1人あたり1時間～1時間半程度のインタビューを行った。協力者への質問では、地域子育て支援における気になる行動や不適切な養育が疑われる親子への具体的支援について尋ねた。インタビューデータを逐語録化し、質的データ分析用ソフトウェアであるNVivo Qualitative Data Analysis Softwareを用いて分析した。分析では、地域子育て支援において協力者が気になった親子への支援内容に焦点化し、語りのデータから意味内容ごとにコーディングした。そして、得られたコードを比較検討しながら階層化した。最終的に上位のカテゴリーから、語り全体の特徴について捉えた。

結果と考察：インタビューの語りのコーディングの結果、5カテゴリー（【 】で示す）13サブカテゴリー（〔 〕で示す）31コードが生成された。生成されたカテゴリーは【観察】、【子どものシグナルへの理解と対応】、【母の支援ニーズへの理解と対応】、【支援者のメンタルヘルスケア】、【外部専門機関との連携】であった。【観察】は、外見上の気づきにくさ と 気になる行動等 の2サブカテゴリーで構成された。【子どものシグナルへの理解と対応】は、子どもからの不適切な被養育の話 支援者と1対1の関わり の2サブカテゴリーで構成された。【母の支援ニーズへの理解と対応】は、家庭の経済的困難 不適切な養育と対応 母の困難な状況 子育ての困難さに関わる母の特徴 母の信頼・安心感の確保 母の状態の理解 の6サブカテゴリーで構成された。【支援者のメンタルヘルスケア】は、TICによる支援者のメンタルヘルスケア の1サブカテゴリーで構成された。【外部専門機関との連携】は、ソーシャルワーカーや児童相談所との連携 子どもの通う療育施設・園・学校との連携 の2サブカテゴリーで構成された。

気になる行動や不適切な養育が疑われる親子への支援について、各サブカテゴリーの具体的な語りの内容について分析を行い、地域子育て支援の支援者の実践知を図2のように図示した。図2のカテゴリー中の白枠は必要となる専門性を、矢印は支援における相互的影響を示す。

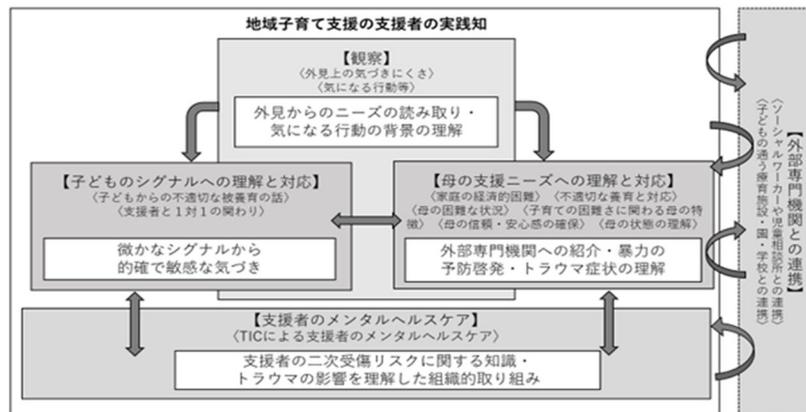


図2 気になる行動や不適切な養育が疑われる親子への支援と必要な専門

図2に示す通り、各カテゴリーで示される支援者の実践知は、それぞれ独立して行なわれるものではなく、相互に影響し合い、連動していると考えられる。支援者は【観察】を通して【子どものシグナルへの理解と対応】や【母の支援ニーズへの理解と対応】をしている。【子どものシグナルへの理解と対応】及び【母の支援ニーズへの理解と対応】は、子どもと母親を含めた家庭への支援として行なわれる。特に【外部専門機関との連携】が必要となる親子は、経済的困難を抱えていたり、孤立し不適切な養育を行っていたりするなど虐待リスクが高い事例も多く、【支援者のメンタルヘルスケア】が必要となる。支援者の二次受傷の防止のためTICが必要である。地域子育て支援は親子がいつでも気軽に利用できる利便性が高い一方、長期的で継続的な支援が難しい。利用する親子に関する情報が乏しい中で、適切な支援を行なうためには、親子だけでなく支援者にとっても安心できる場となることが求められている。TICは地域子育て支援においてトラウマの影響の可能性を排除せずに親子への支援を行い、支援者のメ

ンタルヘルスケアを維持する方法として、有効なアプローチである。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計17件（うち査読付論文 3件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 實川慎子・砂上史子	4. 巻 16
2. 論文標題 地域子育て支援におけるトラウマインフォームドケアの必要性	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 植草学園大学研究紀要	6. 最初と最後の頁 1-12
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 實川慎子	4. 巻 14
2. 論文標題 ママ友関係は子どもが成長した後にどのように変化するのか～成人した子どもを持つ母親のママ友関係に注目して～	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 子育て研究	6. 最初と最後の頁 27-38
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 野坂祐子	4. 巻 20
2. 論文標題 教員のためのトラウマインフォームドケア：『危険な世界』から『安全な関係性』をつくる対話の姿勢	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 教室ツーウェイNEXT	6. 最初と最後の頁 148-151
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福丸由佳	4. 巻 2024春
2. 論文標題 母親・父親の描く理想と直面する現実、求める支援 - "乳幼児の保護者のライフキャリアと子育てに関する調査"より	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 これからの幼児教育	6. 最初と最後の頁 16-21
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 黒澤礼子・太田律子・小島明子・齊藤順子・實川慎子・早山文悟・松川節理子	4. 巻 12
2. 論文標題 発達障害の早期支援における乳幼児健診の役割 1歳6か月児健診調査票（問診部分）の改訂と健診の課題	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 神奈川大学心理相談センター紀要	6. 最初と最後の頁 37-50
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 砂上史子	4. 巻 70（5）
2. 論文標題 保育ジャーナル第227回 保育業務のICT化	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 保育の友	6. 最初と最後の頁 29
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 砂上史子	4. 巻 70（12）
2. 論文標題 保育ジャーナル第233回 こども家庭庁の創設	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 保育の友	6. 最初と最後の頁 36
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 實川慎子・砂上史子	4. 巻 第12巻，第5号
2. 論文標題 特集：子どもと保護者が抱えるリスクへの支援 1 現状理解【事例】保育現場で出会う気になる親子の姿，【解説】リスクを抱える子どもや保護者への対応や支援に苦慮する現場	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 保育ナビ	6. 最初と最後の頁 8-9
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 砂上史子・實川慎子・野坂祐子・福丸由佳	4. 巻 第12巻, 第5号
2. 論文標題 特集：子どもと保護者が抱えるリスクへの支援 2 座談会【事例を考える】問題行動ばかりに注目せず、全体を見る。ストレング(強み)にも着目	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 保育ナビ	6. 最初と最後の頁 10-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 野坂祐子	4. 巻 第12巻, 第5号
2. 論文標題 特集：子どもと保護者が抱えるリスクへの支援 3 心理臨床的アプローチ 方法と実践 ト라우マをかかえる子どもに気付く視点～保育におけるトラウマインフォームドケア～	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 保育ナビ	6. 最初と最後の頁 14-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福丸由佳	4. 巻 第12巻, 第5号
2. 論文標題 特集：子どもと保護者が抱えるリスクへの支援 3 心理臨床的アプローチ 方法と実践 大人と子どもの健やかなコミュニケーション～CAREプログラムの視点から～	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 保育ナビ	6. 最初と最後の頁 16-17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 砂上史子	4. 巻 第12巻, 第5号
2. 論文標題 特集：子どもと保護者が抱えるリスクへの支援 4 提言 心理臨床的アプローチの実践と支援者のための健やかな組織づくりを	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 保育ナビ	6. 最初と最後の頁 18-19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 砂上史子	4. 巻 第50巻, 第1号
2. 論文標題 不確かな未来を生きる子どもに育みたい資質・能力	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 幼児教育じほう	6. 最初と最後の頁 13-19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鈴木瑛貴・北田沙也加・広瀬由紀・小川晶・栗原ひとみ・實川慎子・高木夏奈子	4. 巻 第2号
2. 論文標題 保育者養成校の実習指導における教員間連携への意識	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 植草学園大学・植草学園短期大学教職・公務員支援センター年報	6. 最初と最後の頁 67-72
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 北田沙也加・鈴木瑛貴・金子功一・實川慎子・小川晶・栗原ひとみ	4. 巻 第2号
2. 論文標題 保育実習指導 (保育所) における教員間連携 - 履修学生の意識調査の報告 -	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 植草学園大学・植草学園短期大学教職・公務員支援センター年報	6. 最初と最後の頁 73-77
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福丸由佳	4. 巻 第22号
2. 論文標題 親子のあたたかい関係を支えるために-CAREプログラムを用いたコミュニケーション- 公開講座講演記録	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 武庫川女子大学発達臨床心理学研究所紀要	6. 最初と最後の頁 81-102
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 砂上史子	4. 巻 48(2)
2. 論文標題 幼児教育における「遊びの質」を考える	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 幼児教育じほう	6. 最初と最後の頁 5-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 野坂祐子
2. 発表標題 子どものメンタルヘルスとトラウマインフォームドケア：公衆衛生の観点による援助
3. 学会等名 日本精神神経科診療所協会 webシンポ（web開催）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 福丸由佳
2. 発表標題 大規模調査研究からみえる離婚前後の親子の状況
3. 学会等名 日本離婚・再婚家族と子ども研究学会第5回大会（オンライン）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 北田沙也 加・金子功一・實川慎子令和4年5月
2. 発表標題 保育実習での学生の学び：事後指導における自己評価シートの分析
3. 学会等名 日本保育学会第75回大会 ポスター発表（聖徳大学）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 野坂祐子
2. 発表標題 子どもの支援のためのトラウマインフォームドケア～子どもと支援者のための安全を高めるために～
3. 学会等名 千葉こどもの心教育医療研究会
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計6件

1. 著者名 野坂祐子	4. 発行年 2022年
2. 出版社 ぎょうせい	5. 総ページ数 171
3. 書名 「デートDV」「トラウマインフォームドケア」(諸富祥彦(監修), 金山健一、佐々木掌子(編)『教師とSCのためのカウン セリング・テクニック2「気にしたい子」「困っている子」と関わるカウンセリング』)	

1. 著者名 野坂祐子	4. 発行年 2021年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 232
3. 書名 トラウマや逆境体験のある子どもの理解と対応(相澤仁 編集代表・上鹿野和宏・御園生直美 編『シリーズ みんなで育てる家庭養護 中途からの養育・支援の実際:子どもの行動の理解と対応』)	

1. 著者名 福丸由佳	4. 発行年 2021年
2. 出版社 北大路書房	5. 総ページ数 160
3. 書名 子育ての経験と親子・家族の関係(佐久間路子・福丸由佳編『新保育ライブラリ 子どもと家庭支援の心理学』)	

1. 著者名 野坂祐子	4. 発行年 2021年
2. 出版社 北大路書房	5. 総ページ数 160
3. 書名 特別な配慮を要する家庭：子ども虐待とトラウマインフォームドケア（佐久間路子・福丸由佳編『新保育ライブラリ 子どもと家庭支援の心理学』）	

1. 著者名 實川慎子	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 640
3. 書名 「入園説明会」「未就園児保護者」「トラブル（事故/けが/けんか）」「（保護者の）要望」（中坪史典・山下文一・松井剛太・伊藤嘉余子・立花直樹編『保育・幼児教育・子ども家庭福祉辞典』）	

1. 著者名 砂上史子	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 640
3. 書名 「プライバシー」「同意(保護者の同意)」「説明責任」（中坪史典・山下文一・松井剛太・伊藤嘉余子・立花直樹編『保育・幼児教育・子ども家庭福祉辞典』）	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	福丸 由佳 (FUKUMARU YUKA) (10334567)	白梅学園大学・子ども学部・教授 (32808)	
研究分担者	野坂 祐子 (NOSAKA SACHIKO) (20379324)	大阪大学・大学院人間科学研究科・教授 (14401)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	實川 慎子 (JISTUKAWA NORIKO) (80619776)	植草学園大学・発達教育学部・教授 (32527)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関